

◇宅建業者に取引成立前にハザードマップ提示要請 国交省

国土交通省は、宅地建物取引業者に対し、不動産取引でハザードマップを提示するよう要請した。契約が成立するまでの間にハザードマップを提示することで、取引の相手方に水害リスクを認識してもらう。不動産業界団体5団体に依頼文書とQ & Aを発信した。

ハザードマップの提示対象は、売買取引の買主を想定する。Q & Aでは、市町村が作成・公表する水害ハザードマップを見せ、物件の位置を示すことを求める。併せて、マップに記載があれば最寄りの避難所の位置や物件周辺で想定される浸水深についても情報提供する。

◇東京五輪選手村で開発の「晴海フラッグ」1期に1543組が登録

三井不動産レジデンシャルなど10社が中央区の東京五輪選手村で開発している大規模分譲マンションプロジェクト「HARUMI FLAG」（総分譲戸数4145戸）の第1期600戸が販売され、登録受付期間の申込数が1543組となった。最高倍率は71倍、平均倍率は約2.57倍。最高倍率をつけた住戸は、海側の眺望でレインボーブリッジが見渡せる6街区A棟の最上階（14階）にあるルーフバルコニー付きの角住戸で、専有面積約78㎡の3LDK、販売価格は1億960万円。

◇山手線内最大のマンション・白金高輪に1247戸の複合再開発物件

東京建物、長谷工コーポレーション、住友不動産、野村不動産、三井不動産レジデンシャルの5社は、港区の大規模複合再開発マンション「白金ザ・スカイ」（総戸数1247戸、分譲770戸）の販売を10月下旬から開始する。山手線内側では過去最大の戸数になるという。

立地は白金高輪駅から徒歩3分。45階建ての東棟、19階建ての西棟、4階建ての低層棟の3棟が整備される。総延床面積は13万4941㎡。マンションのほか、商業施設や医療施設、工場、子育て支援施設が入る複合物件。マンションの引き渡しは23年3月下旬の予定。

◇高輪で284戸のマンション建替え事業 大和ハウス工業

大和ハウス工業は、「（仮称）高輪一丁目共同建替計画」によるマンション建て替えを始める。2棟のマンションを地上35階建てのタワーマンションに建て替える。総戸数284戸、間取りは1R～4LDK、専有面積は29.73～117.15㎡。竣工は23年1月の予定。

所在地は白金高輪駅から徒歩1分。老朽化と耐震性能の不安、空き住戸の増加などが問題になっていた築48年のマンション（敷地面積851㎡）と築39年のマンション（同1064㎡）を解体し、隣接する敷地を追加して建設する。

◇秋葉原と御徒町駅間高架下に商業・宿泊施設 JR東都市開発

ジェイアール東日本都市開発は秋以降、秋葉原駅から御徒町駅間の高架下で、集合店舗4棟と宿泊施設1棟を開業する。歩行者の回遊性が高い高架下複合施設を目指す。

敷地面積は合計約4000㎡。集合店舗4棟は、倉庫や工場を意識したデザインの建物とし、うち1棟は電気街である秋葉原らしい製品などの販売・修理・中古売買を行う店舗や飲食店舗が入居する複合施設を展開。宿泊施設は2階建て、延床面積923㎡。1階を時間制駐車場、2階を客室数29室（2～7名室）で収容人数101名を予定するホテルとして営業する。

◇森ビル参画の虎ノ門・麻布台再開発着工

総延床面積約86万㎡に上る超大型再開発「虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業」の起工式が行われた。平成元年の街づくり協議会設立から30年を経ての着工で、竣工は23年3月の予定。都心の新たなランドマークとなる地上約325mの複合棟は竣工時点では国内で最も高いビルになる。

施行地区は約8.1ha。オフィスや商業、住宅、ホテル、インターナショナルスクール、生活支援・交流施設など多様な都市機能を一体的に整備する。住宅は約1300戸の予定。